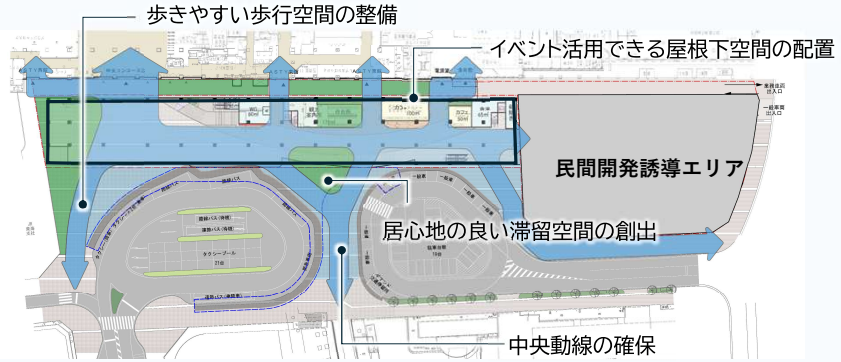
第3回空間デザイン検討部会　概要まとめ【令和8年9月8日開催】

【会議開催スケジュール】

	議題	開催時期（予定）
空間デザイン検討部（第1回）	・部会の進め方 ・検討に必要な視点と課題の整理	令和7年 9月30日
空間デザイン検討部会（第2回）	・空間デザイン方針（案）の設定①（配置・機能・つながり） ・広場機能・動線機能の具体化・施設配置（案）の作成	令和8年 2月26日
空間デザイン検討部会（第3回）	・第2回デザイン検討部会意見の反映について ・施設配置案（人流と滞留空間）について ・プランの魅力を高める空間デザイン方針	令和8年 9月8日
再整備検討委員会（R8 第1回）	・空間デザイン方針 ・ロータリー形状、主要施設の機能について	令和8年 11月開催予定

■ロータリー形状／歩行空間と滞留空間



＜凡例＞　歩行空間　滞留空間

【当日資料（抜粋）】

■プランの魅力を高める空間デザイン方針（案）

『社会変化に対応する視点』から設定した空間デザイン方針
～時代の変化に対応する駅前広場～

年々厳しさを増す暑熱環境への対応により、夏でも安心して、快適に利用できる環境を実現します。また、時代の変化に対応するため、多様な利用者ニーズに応える駅前広場を目指します。

①安心・安全な利用のための暑熱対策の実施
- 夏の日射が厳しい静岡駅南口では、植栽により緑陰を形成するなどの暑熱対策により、暑い夏でも安心して快適に利用できる環境の実現を目指す

②多様なニーズに対応する駅前広場の創出
- 最新の情報に柔軟に更新できる情報発信・案内施設の配置、社会変化に対応できるゆとりある駅前広場を目指す

『地域らしさを表現する視点』から設定した空間デザイン方針
～静岡らしさを感じられる駅前広場～

地元の商店街や学校、企業等と連携して、地域らしい活動が日常的に行われる広場空間を目指すとともに、静岡の特性や魅力を生かしたデザインコードを設定し、関係者によるデザイン調整を通じて、周辺施設と調和した一体的な空間形成を図ります。

①地域らしい活動のデザイン
- 地元の商店街や学校、企業等と連携し、地域に根差したマーケットやイベントが開催できる広場の創出を目指す
- 広場利用者が地元の情報や文化、人々とふれあう機会を生み出し、広場運営主体と連携しながら、静岡らしい活動が日常的に育まれる空間づくりを目指す

②周辺施設等と一体となった駅前広場の創出
- 静岡駅南口周辺の個性を継承・発展させるため、駅前広場に加えて周辺の民間開発や取組も含めたデザイン調整を行い、良好な景観形成やまちとの連続性を図る

【部会意見】

観光案内所について
- 観光案内所にエリマネ組織の事務局が入ることや、コンシェルジュ機能を持たせるなど、観光案内所のあり方についても検討が必要である。
- 2階に観光案内所を持っていくことはできないのではないか。

1階ピロティ空間・滞留空間について
- イベントやエリマネ活動を行うには、1階のトイレと倉庫は必須である。
- 待合やカフェは2階でもよく、その分1階を空けることも考えられる。
- 待合が何の待合なのかを整理する必要がある。市民からは学生が長時間過ごせる場の要望が多い。
- 滞留空間は、まとまりがあり、まちから視線が通る空間とすべき。
- 基本的には、両端にコアを置いて人流（主動線）をコンテンツで挟みたい。中央を自由に使える空間とする構成が望ましい（50m×50mでマーケットができるイメージ）。
- 休日はまとまったイベント空間として使うなど、平日と休日を分けて考えると見え方が変わる。
- 主動線の幅員がピーク時（平日夕方）で設定されているので、休日等イベント実施時にはもう少し余裕があるのではないか

上空建物と駅舎間の空間について
- 建物の背中合わせになる空間であり、活用は難しいのではないか。
- 人の流れをコンテンツで挟む配置が望ましい。
- 理想は建物の東西両端にコアを置き、中央を自由に使える空間とし、事業者に提案してもらうことである。

広場上空建物について
- 現在の公募条件のままだと、収益施設しか入らないおそれがある。空間の価値や魅力を高める施設が入るコンセプトが必要である。
- 2階以上に商業テナントしか入れないとすると南口にとって良いのか。公募の必須事項の中に「にぎわい施設の確保や、空間の価値・魅力の向上」のような条件が入っていると良い。
- 駅前の建物は放っておくとスーパーや薬局になりがちであり、広場をしっかり確保しないと地域性は生まれないため、スキームで工夫すべき。

エリアマネジメントについて
- エリアマネジメントによってまちの何を動かすのか、誰を巻き込むのか、上位の考え方を示す資料が必要である。
- 今後の商店街や石田街道への展開を見据えて、什器、倉庫の容量、使い勝手を考えていく必要がある。
- 活動できる広場を確保しておかないと地域性が出ない。エリアマネジメントにおけるイベント開催も想定した検討が必要である。

事業規模・収益について
- 類似事例から、運営規模を想定し、運営規模から逆算して、配置できる機能や人員を見極めるとともに、収益項目を空間全体で積み上げ、事業を成り立たせることを目指すべき。
- 収益の一部を地域らしさを生む企画に回せる空間とすることが、空間デザインとして最も望ましい。

担い手・運営体制について
- 海老名型（地域連携）と熊本型（開発連携）のハイブリッドで検討できるのではないか。
- 整備期間の中で、ステークホルダーの掘り起こしから事業開始までの段階を設計しておく必要がある。
- エリアマネジメントが関与する範囲・活動規模と、市との役割分担を明確にすべき。
- いきなり最終形を目指すのではなく、スモールスタートで段階的に発展させる見せ方もある。
- 指定管理期間を長期とし、その中で組織や事業を育てる考え方もある。

施設デザイン・今後の検討について
- 本部会で決める範囲と、事業者やデザインレビューに委ねる範囲を整理する必要がある。
- 地域の樹種を植栽したり、地域材が使用される機会があると良い。

令和8年度　第7回再整備検討委員会